指定管理者制度活用事業　評価シート

1. 基本事項

施設名称	八ケ岳少年自然の家	評価対象年度	令和6年度
事業者名	・事業者名　一般社団法人富士見パノラマリゾート ・代表者名　理事長　名取　重治 ・所在地　　長野県富士見町富士見6666番地703	評価者	青少年支援室長
指定期間	令和3年4月1日 ～ 令和8年3月31日	所管課	こども未来局青少年支援室

2. 事業実績

利用実績	①年間延べ利用者数　89,669人 （令和5年度:90,246人）	②年間延べ利用団体数　568団体 （令和5年度:549団体）
収支実績	単位:円 1　収入 指定管理料　265,111,794 物価高騰補填金　3,120,817 利用料金収入　7,160,670 環境収入　2,561,210 その他収入（食堂他）　106,890,418 合　計　384,844,909 2　支出 人件費・賃金　105,021,387 光熱水費　37,958,725 委託費　30,596,784 備品購入費　542,080 消耗品費　6,208,560 商品仕入れ費　80,732,328 修繕費　18,112,155 その他経費　95,817,282 合　計　374,989,301 3　差引　9,855,608	
サービス向上の取組	利用者にアンケートを行い、意見を取り入れた活動を行っている。また、自然教室のプログラムの一環として、地元農家と連携して田植えや稲刈りの体験を実施するなど、サービス向上に取り組んでいる。	

3. 評価

分類	項目	着眼点	配点	評価段階	評価点
利用者満足度	事業推進	施設の目的に合った事業が実施されているか	5	3	3
		計画どおり事業が実施されているか			
	事業成果	事業成果として利用者数に増加傾向がみられるか	5	3	3
	（評価の理由） ・八ヶ岳少年自然の家敷地内で、「自然に触れる」、「自然を感じるプログラム」を取り入れながら、自然の家のルールの中で子どもたちの育成に通じた事業を適切に講じ、計画通り、市内全ての小中学校を対象にした自然教室の円滑に受け入れることができた。 ・宿泊者や地域住民を対象としたふじみ星空観察会や八ヶ岳ふれあい星空観察を継続して実施したことに加え、川崎市青少年の家との共催で当該施設を利用し宿泊体験や登山を取組むなど連携を図り、更なる青少年の健全育成につながった。 ・利用者数に関して、主に自然教室における送迎バスの入札不調による一部の学校における他施設利用等の影響により目標値を達成できなかったが、前指定管理時平均と比すと増加している。				
収支計画・実績	適切な金銭管理・会計手続	適切な会計処理がされているか	5	2	2
	効率的・効果的な支出	計画に基づく適切な収入が確保されているか	10	4	8
		計画に基づく適切な支出がなされているか			
		支出に見合う効果が得られているか			
		効率的な執行等、経費縮減の具体的な取組がなされているか			
	（評価の理由） ・適切な金銭管理・会計手続については、備品管理において市の備品整理簿及び指定管理者の台帳に登載されたまま廃棄した事例が発生したが、その後、新たに「備品廃棄依頼票」様式を作成し、廃棄前に当該依頼票を記入して市に提出することで整理し、適正な会計処理に努めることができた。 ・ガス及び燃料に係る料金高騰分の一部を補填した際の補填金について、補填金の差額精算分として電力供給会社から返金された電気料について、市への報告を失念していたことが判明したが、その後、迅速に対応し差額分の精算を適切に行った。 ・効率的・効果的な支出については、鳥の棟宿泊室、研修室等などの照明をLEDに変更し電気代の削減を実施した。また、昨今の物価高騰により、食堂における食事メニューについては新たに料金を設定する等、必要経費の確保に向けて柔軟に対応した。				

サービス向上及び業務改善	施設・事業の広報	施設や事業が積極的に広報されているか 広報の方法に工夫が見られるか	5	4	4
	利用者への対応	利用者に対する接遇が適切にされているか	10	3	6
	学校及び行政機関との連携	事業実施に当たり学校や行政等と連携が図られているか	10	4	8
	利用者ニーズ	利用者ニーズの把握がされているか 把握したニーズが事業運営へ反映されているか	10	3	6
	(評価の理由) ・施設・事業の広報について、施設ホームページやFacebook、Instagramを活用し施設の出来事や活動に関する写真や動画を定期配信を行い、フォロワー数を増やしたり、青少年支援室主催の青少年フェスティバル等川崎市主催の事業やイベントにも出向いてクラフト体験や丸太切り体験等を行い、施設の魅力を発信するなど様々な広報媒体や行事・イベントを活用してPRを行った。 ・利用者への対応について、オリエンテーションコースやナイトハイクコースの見直しを行ったり、関係者以外の立ち入りを禁止する表示を設置するなど、未然のトラブル防止策を行った結果、令和6年度においては特段大きな苦情がなかった。 ・令和6年度においては、既に調整が行われていた自然教室の活動スケジュールについて、令和5年度末に送迎バスの入札不調により自然教室の延期が発生し、短期間でのスケジュールの見直し、各校との活動プログラムの再調整などを行った結果、無事に自然教室を実施することができた。 ・傷病者発生時において、マイナンバー保険証を持っていなかった児童について、FAXで受け取り、最寄りの病院まで持参するなどの対応を行った。 ・利用者ニーズの把握について、継続して利用者アンケートするなど日頃から利用者ニーズの把握に努めた。			
組織管理体制	適正な人員配置	利用人員等を考慮し、事業実施に必要な人員が配置されているか 事業の目的を考慮した適正な職員が採用されているか	10	3	6
	職員の研修体制	職員のスキルアップを図るために必要な研修等が実施されているか	5	4	4
	個人情報等の取扱	個人情報保護の法令遵守のルール(規則・マニュアル等)と管理・監督体制が整備され、適切な運用が為されているか	5	3	3
	(評価の理由) ・適正な人員配置について、概ね計画的に職員の採用・配置を行った。宿直者の配置状況について、宿泊者がいるにもかかわらず、宿直者の配置が1名であった日があったがことが判明したが、その後、市と協議し、「宿直者確認票」様式を作成し、夜間に利用者がいる場合の宿直者の配置については、月報とともに提出することで適切に対応した。 ・利用者の送迎及び野外炊飯等においては、他施設からの職員を要請するなど法人全体で対応し、よりきめ細やかなサービスを提供した。 ・職員の研修体制について、労働施策総合推進法におけるハラスメント防止策に関すること、LGBT理解推進法における教育機関への影響等、自然体験活動における最新のリスクについて、講師を招き講習を実施した。 ・個人情報の取扱いについて、管理責任者(所長)を選任し、法人の個人情報取扱い規定に基づき厳正に対応した。			
適正な業務実施	施設・設備の保守管理	安全な利用に支障をきたすことのないよう、施設・設備の保守点検や整備等を適切に実施しているか	5	5	5
	利用者の安全確保	利用者の安全確保のため、工夫がされているか 事故等が発生した場合に適切な対応が行われているか	5	3	3
	防犯対策	施設の防犯のための工夫がされているか 緊急時のマニュアル等が整備されているか	5	3	3
	災害への対応	避難訓練や消防訓練が適正に実施されているか 災害発生時のマニュアル等が整備されているか	5	3	3
	(評価の理由) ・施設・設備の保守管理について、施設の老朽化等により予定外の修繕工事(アストロハウスの水漏れによる緊急工事かつ仕様書に定めた以上の修繕工事費)等が発生した結果、令和6年度当初の予算額以上の修繕工事を行ったが、施設運営に影響が出ることなく迅速に対応した。 ・利用者の安全確保について、野外活動エリアは年間を通して常時安全点検を実施し悪天候時は、施設内外の点検を速やかに行った。また、台風や天候急変が予想される場合には、事前に利用者や団体責任者に連絡を取り事前に対応するなど行い、特に大きな事故等なく運営した。 ・防災マニュアル等に基づいて、日頃から気象情報を注視し、台風が悪天候が予想される場合は、土嚢の設置や水路の確認、非常用電源の確保などを行いながら災害に備えるとともに、休所等の可能性が生じた場合は速やかなに青少年支援室に連絡をとるなど連携を密にして対応した。 ・令和6年度においては、大きな災害はなかったが、日頃から避難誘導ができる体制をとるとともに、災害マニュアルや仕様書に基づいて避難訓練を実施した。			

注) 配点×(評価段階／5)＝評価点

4. 総合評価

評価点合計	67	評価ランク	C

注) 評価点:100点満点。評価ランク:5段階評価
A(80点以上):特に優れている、B(70点以上80点未満):優れている、
C(60点以上70点未満):適正である、D(50点以上60点未満):改善が必要である、
E(50点未満):問題があり適切な措置を講じる必要がある

5. 事業執行(管理運営)に対する全体的な評価

令和6年度においては、予算額を上回る食堂収入、売店収入の効果により安定的な運営が行われている一方で、利用者数については、主に自然教室における送迎バスの入札不調による一部の学校における他施設利用等の影響により、令和5年度を下回わることとなった。送迎バスの入札不調の影響で自然教室の延期や一部の学校の他施設利用が発生したが、短期間でのスケジュールの見直し、各校との活動プログラムの再調整などを迅速に行った結果、無事に自然教室を実施することができた。また、一部諸室の照明のLED化による電気代の削減や食堂の食事メニューについては、新たに料金を設定する等、費用の削減及び必要経費の確保に向けて柔軟に対応した。施設・事業の広報については、立地的な距離に関わることなく青少年を対象にした事業やイベントに出向き、体験活動を行い施設の魅力を発信された。施設・設備の保守管理については、施設の老朽化等により予定外の修繕工事等が発生した結果、令和6年度当初の予算額以上の修繕工事を行い、施設運営に影響が出ることなく早急な対応を行った。

6. 来年度の事業執行(管理運営)に対する指導事項等

今後も物価高騰の影響は生じる可能性は高いので、引き続き、日頃から利用者への節約を促すような働きかけ等を実施し、更なる経費節減及び必要に応じて料金改定の検討を行い、安定的な施設経営を行うよう推進していくこととする。また、備品の適正な管理及び夜間の宿直を含めた職員の適正な配置については、改善策に基づいて継続して対応し管理していくこととする。令和7年度からの自然教室利用者の減少に応じて、一般の利用団体等を増加するための対策を講じ、効率的な施設運営を取り組んでいくこととする。